

人権・平和部会

I. 研究概要

1. 研究課題

「共に生き、平和な社会を創り上げる力を育む教育はどうあるべきか」

2. 研究内容

(1) どのように平和教育を位置付け、実践していくのか

【研究内容①】

教科における
平和教育の実践と教
育課程への位置付け

【研究内容②】

教科外における
平和教育の実践と教
育課程への位置付け

【研究内容③】

平和教育の情勢の分析と今日的な課題

(2) どのように人権・共生教育を位置付け、実践していくのか

【研究内容④】

民族・人権・共生教育の実践と
今日的な課題

- ・アイヌ民族 ・人権教育
- ・男女共同参画 ・子どもの権利条約
- ・バリアフリー ・インクルージョン
- ・ノーマライゼーション ・福祉
- ・少数民族 ・労働者の人権
- ・しょうがい者の人権 ・LGBT
- ・主権者教育

3. 研究方法

(1) レポート作成

- ・実践報告、または、各校・各学年の教育課程への位置付けや昨年度（9月以降）の実践報告、今後実践する予定の指導案等

(2) レポート交流

- ・感想、意見、反省等を提出

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 部会役員研修会による研究経過

- | | | |
|--------|---------|---------------------------------------|
| 5月11日 | 部会役員研修会 | ・・・今年度の方向性についての確認 |
| 5月28日 | 部会役員研修会 | ・・・課題部会研究協議会に向けての準備
実技研修会の計画と具体的準備 |
| 6月 | 部会情報発行 | ・・・レポート提出、意見集約について |
| 9月 8日 | 部会役員研修会 | ・・・レポート丁合 |
| 10月22日 | 部会役員研修会 | ・・・今年度の研究のまとめと次年度に向けて |

(2) 部会役員研修会での研究成果

- ・研究課題の明確化
- ・実技・理論研修会のもち方、内容の検討

2. レポート交流

レポート交流では、実践報告、または、各校・各学年の教育課程への位置付けや昨年度（9月以降）の実践報告、今後実践する予定の指導案等について交流を行う。

8月6日の 実践について

- ・今年度は、広島平和記念式典のTV視聴や広島原爆を取り上げた授業等、8月6日が登校日となったことを生かし、「8月6日だからこそできる平和教育の実践」を行うことができた。
- ・8月6日は、数多くの学校でTV視聴の報告があり、子どもたちの心に残ったと思う。被爆者や戦争体験者の意思を戦後75年のいま、しっかりと子どもたちに伝えていかなければならないと思った。
- ・8月6日が登校日となったため、広島平和記念式典を視聴し、これを「平和を考える」きっかけとした実践が見られた。今年度限りのものとなるが、子どもが真剣にその模様を見る様子、教室という空間で同じものを見た、ということは子どもにとって重要な時間になったと考える。
- ・戦後75年、あらためて平和教育の大切さを痛感している。新型コロナウイルスの影響で、教員生活で初めて8月6日を生徒たちと通常授業の形で迎えられた。当日は、「中国新聞デジタル、原爆の日特集」より、広島平和記念式典での広島小学校6年生の言葉、広島県知事、安倍首相の言葉を紹介し読み合った。

全校での取組について

- ・大曲東小、大麻西小、江別第二小の平和集会について
このような状況の中、工夫を凝らして全校で平和について考える時間を作ったことは、これまで積み重ねてきた学びが持続していく、かけがえのない実践である。また、教育課程にしっかりと位置付けられてきた、という点も改めて重要であることが証明されている。
- ・やはり、花川南小のように教育課程にしっかりと組み込まれていることは大きい。年間を通じて、もしくは長いスパンでじっくりと1つのことを考えていくことができる。
- ・江別市や北広島市の折り鶴作成や平和集会の取組を、他の市町村にも広げられたら、と思った。
- ・全校で平和教育に取り組んでいる大曲東小・大麻西小・大麻東小・江別第二小・南線小など、実に多くの学校で平和集会等が実践されていて素晴らしいと感じた。

コロナ禍だからこそ

- ・今後は教育現場で「コロナ（あるいは様々な感染症）」との共存、共生をどう図っていくか、ということも研究内容に入ってくるのでは、と感じる実践であった。目の前にその危険があるとき、可能性があるときに我々はどう対応していかなければならないのか、を考えることがお互いの人権を尊重し、よりよい生き方をしていくことにつながるのではないか。
- ・北斗中 戸塚教諭のレポートについて
「ウイルスと同じくらい人間が怖い」という生徒の感想の箇所がとても印象に残った。コロナ禍で SNS 等でのデマやマスク警察など、人間の闇の部分が表に出てきたと思う。今回のコロナ禍で個人的に、コロナウイルス自体よりも人間の方が怖いと感じている。

その他

- ・阿部教諭が退職されるという報告に驚きました。とても残念です。演劇をはじめとする多くの実践が私たちに刺激を与え、実践の輪がぐんぐん広がりました。「部会に参加することで自分を見失わないでいられる気がしました」の言葉が心にしみました。
- ・昨年、焼夷弾など触らせていただき、写真では理解できないものを感じました。これからの教育活動の中で、もっと考えさせる、見せる、直接触れる経験を子どもたちにさせていきたいと思いました。
- ・今後も、教育現場に身を置くものとして、自覚と責任をもち、「誰のため、何のため」の視点を失うことなく小さな実践を積み重ねたい。

・南線小学校の実践について

教室で「平和について考える」と言われると、ほとんどが「戦争」「原爆」「憲法」が多いイメージだが、この実践は考えさせられるものであった。「命」「殺人」そして「戦争」、ぜひ、子どもの反応が知りたいと思った。おそらく、いろんなことを考え、様々な意見が出されたのではないだろうか。

・恵庭中学校の実践について

このような積み重ねが生徒の日常に「平和」が根付いていくことにつながっていく。はじめは戦争に関する本が集められ、それが増えていき、このようなパネル展になり、そこには生徒のメッセージが。こうやって子どもたちの中に「自分で考える」力、「自分で判断する」力が備わってくるんだろうな、と感じた。

・アイヌについての学習は、こちらが意図的に時間を取らないと、ややもすれば子どもたちに根付くことにはつながらない。地域によっては外部講師として呼び、学習を進めている実践もあるので、うまく教育課程に入っていけば…と思う。ウポポイの活用も増えていくと考えられる。研修でぜひ企画を…と思う。

Ⅲ. 講演会（実技・理論研修会）

今年度の実施は無し

Ⅳ. 部会研究の成果と課題

1. 成果

- (1) 今年度は、特別な事情の中、現状に合う工夫を取り入れながら「平和教育」「人権・共生教育」について交流ができ、とても貴重な時間となっていた。
- (2) 「8月6日だからこそできる平和教育の実践」を行うことができた。
- (3) 小中での人権・平和教育の在り方を交流できるとても貴重な機会となっている。
- (4) 私たちが正しい情報を得て学び合い、その情報を子どもたちに伝えることで、子どもたちの知識や理解が深まり、適切な判断力につながった。

2. 課題

- (1) 社会情勢がどうであろうとも、子供たちに平和の尊さ、人権の重さ、共生の意義について考えさせることが肝心であり状況に合わせて工夫し、最善の方法で学習をすすめていくことが大切である。
- (2) コロナ禍という現状から見えてくる諸課題も、「平和教育」「人権・共生教育」の観点から見ると重要な教材となる点もあり、今後は、通常の教育課程に「平和教育」「人権・共生教育」の観点を位置付けつつ、新たな教材研究に努めたい。
- (3) 今回の実践を共有し、広めていくことが協働研究の意義であることをふまえ、実践が単発に終わってしまうのではなく、系統立てて継続的に行う。
- (4) 多くの学校で平和教育を教育課程や道徳に位置付けたり、平和集会など全校的な活動を行ったりできるように、条件整備を進めるための手立てを共有していく。

（文責 稲尾）